

藩翰譜

五

五  
酒井憲 土井 阿部  
香山 永井 安藤  
板倉 井上 森川  
久世 稻垣 西尾  
三浦 米津 伊丹

一	一	七	和
五	六	六	書
冊	一	七	門
架	六	七	類
函	七	七	
號	七	七	
類	七	七	

五	七	和
五	七	書
冊	七	類
架	七	

内閣文庫	番號	和	7607
	冊數	15 ( 5 )	
	函號	155	38



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

平島給状

御井

河内守藤原公成に御井の事  
推定出政の事

御井

藤原公成に御井の事  
推定出政の事

藤原公成に御井の事  
推定出政の事

藤原公成に御井の事  
推定出政の事

藤原公成に御井の事  
推定出政の事

藤原公成に御井の事  
推定出政の事

教部省  
文庫印

清翰譜八

酒井

大崎文庫  
藏印

大崎文庫

日吉文庫

河内源重忠と連川のふの孫雅樂助廣親のお代の孫  
雅樂助政親の嫡男  
連川殿とてふの年一十一とてふの年一十一  
安祥殿とてふの年一十一とてふの年一十一  
是納の始と納をふ伊路のふり一十一

付由一門のらく後方のふふふと流してやうい是流の  
臣納よりと安部石川のくくと流して水野長遠交  
た政の娘としつくと水の方とてふ年とを流すくワリと  
誕生のしつとてふ年とを流すくワリとてふ年とを流すくワリと  
雅樂助政親流竹刀と流す安部石川の流す年とを流すくワリと





いふに新治とありては此年を送りてすしとて一命命を  
しとてそのれはきし平紀伊ちも度し是清成水のての  
少師とていふはこれ川を区けりり小送ししとて  
つ人し河もをうをりりしれい女もとていふは送しと  
海を舟とすくも多し一うたの由母ももす一とてい  
ふと也の記いし一く又政親り中い信ゆりともす  
同いし七年二月十九日是清成今川のくことある一  
減田源正忠は秀と山を攻め戦ひ多し一時是谷の戦  
ひと政親えしけしとて之命命に度し命命海大  
子ゆと云ふ別のとて河もも是谷の軍中あれかりし  
早しとて是清成くしとては秀ももいふ一は年

病く信成是清く押もや政親も川を信くも明る旨  
の色ともしし一戦し信成と河ももいふは清成  
いも多しは川成清成の由とてそのまも是清い一は政親  
小是清とては秀君の山を攻め戦ひ多し  
一は是清川成是清の城くゆりりあかくては信成は年  
去りしは信成は是清の一族是清川甲申又は是清は是清  
戦ひは政親ももいふは川成の山を攻め戦ひ多し  
政親と信成は政親是清の城とて西成の城とて一は  
又西成の城く入東成の城とてあては信成は信成  
是清内とて是清は信成の城くゆりりあかくては信成は  
城とていふは政親ももいふは川成は信成の城とて一は

ねとそすくらり 手書伝記 紀元前 紀元前 紀元前 山崎の巻

尾張守城の上尾女に長高侍のふくおと石切つてを

えとてに我多うしれ 後まの氏三我つれをい

あやしくいしと我とあやまひ ね年能くえ麻枝幼弱

のりあてす女やうと錦糸つくとをうり 扇い ねりやう

和國とゆりりきと記し 四方の草と我あ年一年と

流りきとゆりきと伝やうくらきおしてあ何と云ぬれ

こりあ我の孫有りり美とく ともくくくくくくく

長う星房丹下 出城 唐津 芥母 梅坪 右高川

是年即長はる 扇糸の城くくくくくくくくくくく

粉と昔をくく 孫とくくくくくくく 可経は長え麻と

中あかりしとく け城くくくくくくく 星房と石返し

上高とくくくく 下けえ麻と又東國とくくくくく

つくかになくくく 時おしてい 高くはるけあてとあ

いっくくく 道い 山後城くく 扇とあつてい

そりりくくく 下けりくくく 云道くくくくくくく 滝川丸

道将監一書と書と記し 星糸新なると傳志とくくく 石川

仙考と伝ふり 許くけ中河と云道く 滝川丸も宗徒のく

石て伝定つた各一つく 中りりい 高あの子今川の一様

あしとくくくく 山法の家い つかつてと云えとれ 高あ

高あの子とくく 中い 高あの子今川の一様





西河句の儀りも感田及又東の事なりと云ふはとて長光の  
西河句と長光の西河句は同じにおもふ事なれども感田及又東  
の儀りのまじり洋字に依りて女高の中と傳はるる事の御おいら  
て竹千代殿と云ふ事をももて西河句の御もくくし  
の事なりとすゆけり又云ふは西河句の御もくくしに雅楽  
舟改敷けし御もくくしに事いりし申お倉ト云ふ事なりと  
一に西河句とすして西河句の御もくくしと傳はるる事なりと  
傳はるる事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと

管と一と事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
つりやえ西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと  
とも事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと  
西河句の御もくくしと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと





海軍のりたにゆれいけわしのをれと謝るその後名度く  
かきいけはるは序のちねとある江戸版はしりけしと徳政のく  
るふせりいゆら政教かかととまき  
さりのことゆきしゆりきまき川 橋子河内を主たる野原  
父山はくちま心八年六月田中城のいふくまか下をて  
ゆらせりりく政を宗の城とわくは後と務めまき  
宗匠のくくとかるくはし今と教いさゆめい  
川はくちま心八年山田城と攻めまきしにまきと海と  
ゆらけ年希東くゆらひし武蔵国河内城の城と  
ゆらひ一万子息を攻め捕らせしけ城のいふく不依ゆらひ  
武蔵国版しゆらまきしり 大田原の ま長六年二月上野  
版務の城と務めまきしり 少華 山田城の代と石を世くゆらひ  
ゆらひしり十年石を世くまきしり 道江の 石の代とゆらひ

常々日中例ハ  
の代ふりしりしり 十 二年二月石を世又上野山谷長寺の代とゆら  
ゆらひしりしり 二 万ふりしりしり 三 万ふりしりしり 四 万ふりしりしり  
將軍ふりしりしり 五 万ふりしりしり 六 万ふりしりしり 七 万ふりしりしり  
いふりしりしり 八 万ふりしりしり 九 万ふりしりしり 十 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 十一 万ふりしりしり 十二 万ふりしりしり 十三 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 十四 万ふりしりしり 十五 万ふりしりしり 十六 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 十七 万ふりしりしり 十八 万ふりしりしり 十九 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 二十 万ふりしりしり 二十一 万ふりしりしり 二十二 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 二十三 万ふりしりしり 二十四 万ふりしりしり 二十五 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 二十六 万ふりしりしり 二十七 万ふりしりしり 二十八 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 二十九 万ふりしりしり 三十 万ふりしりしり 三十一 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 三十二 万ふりしりしり 三十三 万ふりしりしり 三十四 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 三十五 万ふりしりしり 三十六 万ふりしりしり 三十七 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 三十八 万ふりしりしり 三十九 万ふりしりしり 四十 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 四十一 万ふりしりしり 四十二 万ふりしりしり 四十三 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 四十四 万ふりしりしり 四十五 万ふりしりしり 四十六 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 四十七 万ふりしりしり 四十八 万ふりしりしり 四十九 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 五十 万ふりしりしり 五十一 万ふりしりしり 五十二 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 五十三 万ふりしりしり 五十四 万ふりしりしり 五十五 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 五十六 万ふりしりしり 五十七 万ふりしりしり 五十八 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 五十九 万ふりしりしり 六十 万ふりしりしり 六十一 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 六十二 万ふりしりしり 六十三 万ふりしりしり 六十四 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 六十五 万ふりしりしり 六十六 万ふりしりしり 六十七 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 六十八 万ふりしりしり 六十九 万ふりしりしり 七十 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 七十一 万ふりしりしり 七十二 万ふりしりしり 七十三 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 七十四 万ふりしりしり 七十五 万ふりしりしり 七十六 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 七十七 万ふりしりしり 七十八 万ふりしりしり 七十九 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 八十 万ふりしりしり 八十一 万ふりしりしり 八十二 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 八十三 万ふりしりしり 八十四 万ふりしりしり 八十五 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 八十六 万ふりしりしり 八十七 万ふりしりしり 八十八 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 八十九 万ふりしりしり 九十 万ふりしりしり 九十一 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 九十二 万ふりしりしり 九十三 万ふりしりしり 九十四 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 九十五 万ふりしりしり 九十六 万ふりしりしり 九十七 万ふりしりしり  
ゆらひしりしり 九十八 万ふりしりしり 九十九 万ふりしりしり 百 万ふりしりしり

いれし世りとしむ小成中せりして東嶽山とのうき入りて  
紙不書といふ屋一ち世りいなる罪くまをりしりゆりもぬ  
そまのゆやうと謝らんゆちりぬの城とまをりてま一さ  
まをりてま一さのあつちりぬとまをりてゆりゆりゆり  
つて一平一と作れぬ世入りの罪とまをりてま一さの  
後とま一と東嶽山と謝れぬとまをりてま一さの  
いれし世りとしむ小成中せりして東嶽山とのうき入りて  
紙不書といふ屋一ち世りいなる罪くまをりしりゆりもぬ  
そまのゆやうと謝らんゆちりぬの城とまをりてま一さ  
まをりてま一さのあつちりぬとまをりてゆりゆりゆり  
つて一平一と作れぬ世入りの罪とまをりてま一さの  
後とま一と東嶽山と謝れぬとまをりてま一さの  
いれし世りとしむ小成中せりして東嶽山とのうき入りて  
紙不書といふ屋一ち世りいなる罪くまをりしりゆりもぬ  
そまのゆやうと謝らんゆちりぬの城とまをりてま一さ  
まをりてま一さのあつちりぬとまをりてゆりゆりゆり  
つて一平一と作れぬ世入りの罪とまをりてま一さの  
後とま一と東嶽山と謝れぬとまをりてま一さの

延喜七年九月一日  
延喜八年二月八日  
延喜九年三月十日

日向源太郎を討つ二男父の遺族とすら流小行は  
延喜七年九月一日  
延喜八年二月八日  
延喜九年三月十日  
延喜十年四月十日  
延喜十一年五月十日  
延喜十二年六月十日  
延喜十三年七月十日  
延喜十四年八月十日  
延喜十五年九月十日  
延喜十六年十月十日  
延喜十七年十一月十日  
延喜十八年十二月十日



















つれ 老中の後にも庵原組書名とありし。○海らうくつけあろの老中も  
方々とも書名と姓名とありし。ふりきりあ書名とありし。

足利の城と物ハ 徳ハ 正徳元年 正徳の代くりし。○正徳

元年七月十八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを

三浦盛和といひし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを

八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを

八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを

八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを  
八月八日父の遺恨とありし。○父の遺恨三つあるを















大藏の備を束の幸ぬを播多らる成り之界大相國ふくは  
よりとも長七年中絶の由田所之地より小碓門を九年  
のふ二書とかりしうとゆりしに福さくも中一ありとも  
のまゝのめしつうれ日六年甲子六月叙時 野あ新出  
十七年乙子十月甲辰小碓の城と加振研太坂の軍  
かこししともいし又市島南とさゆりしに忠ひくも後  
ゆひとも山の戦とさゆりしに一川とさゆりしに命もたし  
さゆりしに清希とさゆりしに侍軍ふも代とけしに後し  
年成るも名はりしやとほりしに怒もたしとさゆりしに  
歴系く大相國ふくはとの城と作くも書後書の出と  
無く 在徳後殿西城の由徳成りし時の事とさゆりしに 大相國ふくはと

多し 一 後定永十年遠江小坂川の城と物ひ 二方不加之  
つ後し 二方不加之 二方不加之 二方不加之 〇 坂 二方不加之  
西尾と海の城と物ひ 二方不加之 二方不加之 二方不加之  
十六日と辛ら其子大膳舟奉行ふとつ 二方不加之 二方不加之  
一 不承とさゆり 二方不加之 二方不加之 二方不加之

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*









































由書渡の書名とあり同日八年送江玉孫河野の城とあり  
寛永八年八月十日御中より豊後刑部より河野  
て死を奉り申す六とありすくあり  
を治る同月より大坂御通  
をのすけりしを治るふくく正  
詳ありしとあり 嫡子河野三利宗とあり  
此方よ  
二男宗  
刃正宗と申すといふ事あり正保元年三月十日河野三  
利宗の城を治る事ありとあり  
明和二年六月十日奉るの事とあり  
享和元年七月十日に治はる嫡子  
お授と申す事ありとあり  
左衛門右衛門  
右衛門  
左衛門  
右衛門  
左衛門  
右衛門  
同日九月六日お授と申す事あり  
御後と申す事ありとあり

寛永十三年初く大相宗ありとあり  
元和三年四月  
竹の城とあり寛永九年九月九日  
おノ家の城とありとあり  
延月月の城とあり  
此中河野三利宗は  
秋山竹内丹正とあり  
の二月月の事あり  
同日十七年六月十日  
今奉る御書  
の記  
しして西洋御書の法とあり  
その人氏あり然る事とあり  
不承の地加らる事あり  
号一同日は二年二月十日  
寛永二年六月十日  
寛永二年六月十日





















ちつてんじまの創劫を清野田西之とてあゆむの陣しりて  
云ふ所の軍にそいひ文禄年中大綱をふくと記く  
の使者の職とよりその長ふ年の秋山左の侍とて九年  
軍事の町より職とあり寛永元年十一月廿二日午三歳  
しりて死す知相方田盛久とついで元禄元年三月廿九日  
書の以とて寛文三年六月七日書の乃とゆり同  
六年二月十一日大坂の滅書とあり一万ふるとありて  
本在出久後麻呂主嫡子  
伊路子政盛と二男同治と盛信

作丹

播磨守源房勝を初とし物とアキとて大御所  
將軍ありつとより大坂の合戦とていひそまると諸  
州納戸のちと清とつわくしあるとありてこの所の系図とゆり  
文禄のり詳六本  
中江松平左衛門美正総とありてその美正の格牌  
おとほりといひ寛永十九年十一月廿一日とありて勘定及  
とくかみ一時的にありて探まると年をくひの毛とて  
先づりいれいのかのつとつたるしと略すと号とありて  
此の年をあらまといひかきとてエト美正のりありといひのちと二人ありて  
いひりしりしとありてとありて探まると年をくひの毛とて  
石河内合戦とありて二人ありてつとつたるしと略すと号とありて  
いひりしりしとありてとありて探まると年をくひの毛とて  
松平のちとありてとありて探まると年をくひの毛とて  
とありてとありて探まると年をくひの毛とて





